

# けんぱくものしりシート

# アカウミガメ



アカウミガメは赤みがかかった茶色い体をしている、海にすむカメです。

カメの仲間は世界中の川や池・海・陸にすんでいて約250種が知られますが、そのうち海を生活の場としているウミガメは約8種類です。アカウミガメは世界中の海に広くすんでいて、一生のほとんどを海の中ですごしますが、卵をうむ時には陸にあがります。

## あたま 頭・くちばし



アゴが発達した、大きな頭を持ちます。口の中に歯はありませんが、かたい皮ふでできたじょうぶなくちばしで、からのかたい貝やカニなどをくわいて食べます。

## こうら (( ))

ほねと皮ふでできたかたいこうらで体を守ります。ウミガメのこうらは泳ぎのじやまにならないように小さくなっているの、中に頭や手足をかくすことはできません。

こうらの長さ…約70~110cm

## カメはすんでいる場所で

足の形が違う！

例) クサガメ

池や川にすみ、陸にも

あがります。足の指がはっきりわかり、指の間には小さな水かきがあります。

まえあし  
前足

…オールのような形

うしろあし  
後足

…ヒレのような形

泳ぐ時に便利な足の形です。

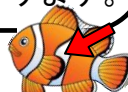
前足を上下させて進み、

後足でかじをとります。

## 【分布域 (アカウミガメが見られる地域)】

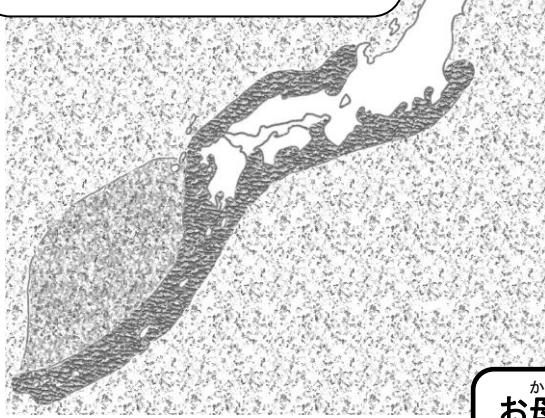
太平洋・インド洋・大西洋・地中海の温帯～熱帯地域のあたたかい海

【体重】約100~150Kg 【寿命】推定30年以上 (自然界での寿命は不明)



# 日本のアカウミガメ

- … 見られる場所
- … 特に見られる場所
- … 主に卵をうむ場所



アカウミガメは日本でも見られ、砂浜で卵をうむ姿をニュースなどでみかけることも多いでしょう。日本では5~8月頃になると、太平洋側では福島県より南、日本海側では石川県より南の地域にある砂浜にあなをほって卵をうみます。

うまれた赤ちゃんは太平洋を何千Kmも旅をして、大きくなるとまた日本に戻ってきて卵をうみます。

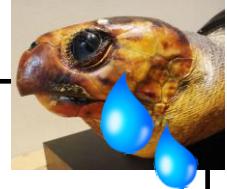


赤ちゃんガメは卵のある巣穴の温度が約29℃より高ければメス、低ければオスになることが多いよ！ ♀♂?



お母さんガメは、卵をうむときにどうしてなみだを流すの？

体の中のよけいな塩をすてるために、なみだを出しています。このなみだは海の中でも出ている、陸にいる間は目がかわくのを防ぐ役目もしています。



夏から秋ころには、三陸沿岸にもアカウミガメがやってきます。展示室にあるアカウミガメのはく製は、1952（昭和27）年に岩手県田野畑村でつかまえられたものです。ちなみに、昔話で浦島太郎を竜宮城に連れて行ったカメは、このアカウミガメだと考えられています。人が乗れそうなほど大きなアカウミガメと、ぜひ展示室でじっくり会ってみてくださいね。



参考にした本 『週刊日本の天然記念物動物編 第38配本 アカウミガメ』 小学館 2003年  
『日本動物大百科〈全11巻〉第5巻 両生類・爬虫類・軟骨魚類』 平凡社 1996年他

来月（6月）の  
けんぱくものしりシートは  
体験学習室-10だよ！  
おたのしみに！



モッチャン



岩手県立博物館

〒020-0102 岩手県盛岡市上田字松屋敷 34  
Tel. 019-661-2831 Fax. 019-665-1214  
<http://www2.pref.iwate.jp/~hp0910/>